



株式会社はやし住宅

「ねをはす HOTEL BOOK & CAFE」などを運営しているはやし住宅。中小企業庁の2025年度「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選出。受賞に至ったその軌跡とは？

「地域の広場」

「本」を通じて
人とまちをつなぐ



▲表彰されたことを前田市長に報告した林さん。

新下関エリアにある「ねをはす」を運営するはやし住宅。今年、経済産業省の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選ばれました。革新的なサービスや技術、地域経済への貢献など、全国の中小企業・小規模事業者の中から、今後の活躍が期待される企業が選定されています。

2024年にオープンした複合施設「ねをはす」の名称には、「下関に根を張り、まちに根差した存在でありたい」という願いが込められています。住宅建築を中心に歩んできた会社の新たな挑戦として、この施設を開設しました。社長

林成吉さんは「建築士と漫画をテーマとした1000冊の本に囲まれています。書店の営業時間終了後は宿泊者限定で夜の書店を散策できます。その魅力から、市外だけでなく市内から訪れるリピーターも少なくありません。また、展示会や講演会、音楽イベントなども開かれ、本をきっかけに人と人がつながる

文化的な豊かさを 支える場所

施設は、1・2階に書店とカフェ、3階にホテルフロントとレストラン、4・7階ではすべての客室に本が並び、特別な4室は旅、食、動物、漫画をテーマとした1000冊の本に囲まれています。書店の営業時間終了後は宿泊者限定で夜の書店を散策できます。その魅力から、市外だけでなく市内から訪れるリピーターも少なくありません。また、展示会や講演会、音楽イベントなども開かれ、本を



市報×Instagram連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します



♡ Q ⑦ @yukiecloveさん



♡ Q ⑦ @hebotaroudesuさん



♡ Q ⑦ @syog0_qさん

(上から) 亀山八幡宮、荒田港、長府庭園

Can You Guess Where This Is ??



▶ 1,000冊前後の本が収められている客室も。



◀ ワークショップなど、地域の方が参加できるさまざまなイベントや催しが行われています。



▶ 「ねをはす」の象徴として1階に5mほどのシマトネリコの木が立っています。

地域に新しい価値を生み出す挑戦

施設づくりの原点には「地域の子どもたちの未来のために」という思いがあります。本に触れ、人と出会い、新しい世界を知るきっかけを届けたい。「まずは足を運び、子どもたちにこの場所を体験してほしい。本や人との出会いを通して、新しい発見をしてもえたらうれしいですね」

場となっています。そこに行けば面白い人がいる。新しい価値観に出会える。その地域の文化的な豊かさを支える場所でありたいという思いが込められています。

下関に根を張り、人と人、人とまちをつないでいく「ねをはす」。その挑戦は、新たな交流とにぎわいを生み出していきます。

本をきっかけに、人が滞在し、語り合い、地域とつながる。人が集い、思い思いの時間を過ごし、新たな出会いや発見が生まれる場所は、まちの魅力を支える大切な財産です。今回の受賞は、一企業の成果にとどまらず、地域に新しい価値を生み出す挑戦が評価されたものと言えます。こうした取り組みが広がることが、市民にとっても、より豊かで魅力あるまちへとつながっていくのではないのでしょうか。

Editor's note

編集後記

◆「この猫をさがせ!」の正解は、59下部、左から8番目の猫でした! 見つけられましたか? この猫は、とある施設の看板猫「タロー」です。表紙のモデルも務めてくれました。カメラを向けても怖がることなく、終始堂々としていたタロー。上を向いたその先には、実は大好きなおやつがあったことは、ここだけの話です。取材にご協力いただいた皆さん、そしてタロー、ありがとうございました。(ふ)